第4回　協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和4年6月7日（火）
開議　13時　28分
閉議　14時　56分
全員協議会室

【委　員】　西田委員長、上野副委員長
村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員
【委員外】　肥後議員
【議長団】　議長
【事務局】　河上局長、松井書記

議　題

1　まちづくりセンター職員との意見交換（現地ヒアリング）の報告について

2　今後の進め方について

3　その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

〔　13 時 28 分　開議　〕

西田委員長　第4回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。

1　まちづくりセンター職員との意見交換（現地ヒアリング）の報告について

西田委員長　5月に約1か月間にわたり、委員には全26館のまちづくりセンターを訪問していただき、いろいろなことがあったと思う。今日はそのヒアリング結果を確認いただきながら、簡単に補足説明をしていただきたい。ヒアリングシートの中で⑵の①、この特別委員会を立ち上げた原点である協働のまちづくり推進にかかわる質問において、地域の皆は協働のまちづくりについてどの程度意識を持っていると思うかという質問が原点だと思う。どこまで意識があるかがスタートラインの鍵だと思っている。そこでこの⑵の①への回答を中心に、各センターの報告をいただければ。加えて何か特筆する点があれば報告いただきたい。

村木委員　（　以下、資料をもとに説明　）

柳楽委員　（　以下、資料をもとに説明　）

村武委員　（　以下、資料をもとに説明　）

上野副委員長　（　以下、資料をもとに説明　）

岡本委員　（　以下、資料をもとに説明　）

西田委員長　この委員会を立ち上げた原点である協働のまちづくりの推進に係る地域住民の意識について、を中心に報告いただいた。スタートラインはこの意識の問題だろう。全体を通じて感じたことがあれば。

岡本委員　私は上野副委員長と三隅を中心に回った。各センター長におかれては、住民には言葉として伝わってないとの話だが、ヒアリングをする中で、協働という言葉そのものは皆さんが理解してないが、やることは以前と変わってないと感じた。要は、自分がすべきことはこうであるとか、行政がすることはこう、また、協働でしなければいけないのはこうといった意識を、おのおのがまちづくり委員会とのかかわりからわかっている。私個人としても三隅地域は協働のまちづくりにおいては先進地だと思っているし、住民意識は旧浜田市内とは違うものを持っている。この地域については、皆さんが理解していないとは私個人としては思っていない。

上野副委員長　三隅地域を回って一番感じたのは、既に動き出している。コーディネーターが積極的に連携して新たなことを始めている。三隅はとても進んでいる。

川神委員　私は村木委員と回った。以前から言われているとおり旧浜田市と旧那賀郡、つまり周辺エリアとでは、まちづくりに対する姿勢や取り組みが基本的に違うと感じている。したがって今までと何も変わ

らずきちんとやっていくだけだということを強く周辺部から感じている。

旧市内に関しては、まちづくり委員会ができていなかったり町内会自体が存在しないこともあったり、温度差がありすぎる。これを埋めるのが特別委員会の役割だろうと思っている。

どこのセンターも協働のまちづくりが認識されていない、と言われたのはとても残念だと思う。やることは変わらないと言っても、自治区が廃止されて協働のまちづくり推進条例ができ、これに基づいてまちを進めていくというところが、根幹である。その名前もよくわからないというのは、住民と浜田市の目指す都市像が、一体感ができていない。とても残念で、今後が心配である。関心を持っていこうという取り組みが少し薄い。こういうところも変えていかないと条例をつくった意味がないのでは。

もう1点、コーディネーターの問題である。私と村木委員が行ったところでは、申しわけないが、何をされているかよくわからない、どういったことを相談してよいかわからない、この人がなぜコーディネーターになっているのかわからない、いろいろな思いがあった。何をもってどういう基準でコーディネーターを選ばれたのか、どのようなことをどんな感じでセンターに寄りそうか、何も決まらないまま行政がコーディネーターを指名して進んでいる。単に名前はあるが実態が不明だと個人的に感じた。実行力を伴ったコーディネーターを配置しないと、センターも本当にお困りなのでは。コーディネーターになった方が悪いのではなく、十分話をされた上でコーディネーターになっているかというと、その意識もわからないという話もあった。今後は、コーディネーター役にはどういう方がよいのか、どういう形でかかわるか、しっかり決めた上でコーディネーター制度を導入しないと効果は出ないのではと感じた。

芦谷委員　旧市町村の枠が尾を引いている。新市になり市町村の枠を超えて何かの目標なり方向性が要ると思った。センター職員も、結局自分たちも住民もよくわからない。どうすればよいかといえば、コーディネーター、センター職員も含め、センター間、まちづくり委員会間の交流をして、ほかに学んで、もしよい点があれば取り入れる。協働のまちづくりとは答えを探す事業だと思う。地域の全てを担う仕事だと思っている。協働のまちづくりは永遠に答えを探す旅だと思う。

村武委員　私は金城地域を回った。協働のまちづくりという言葉は住民に浸透してないかもしれないが、それまでずっとまちづくりの活動をされてきて、そこにほとんどのセンターがかかわってきている、あるいは今かかわっていこうとしているのを見ると、協働のまちづくりは進みつつあるように感じた。ただ、周布まちづくりセンターは金

城地域と全く違っていた。人口規模感も全く違うのだが、周布は管内に一つのまちづくり組織をつくっているため、どのように進めていけばよいのかセンター職員だけでは難しかったのかと感じた。そこを本来ならコーディネーターや担当職員が引っ張っていかなければいけなかったのではと思う。

今後、まちづくりセンターがまちづくり委員会と関わっていく上で、どのように進めばよいか多分悩んでおられると思うので、そこをしっかり引っ張れる人が必要ではと感じた。

村木委員　あるまちづくりセンターで、浜田市が考えるまちづくり、まちのあり方の完成形がどのようなものかゴールが見えないので、何に近づけてよいかわからないという話があった。完成形とはその地域の計画書だと思っている。それに近づくためにどれだけ人がかかわっていくかがまちづくりではないかと。協働とまちづくりのかかわりを整理する必要があると思った。

川神委員　センター職員から、行政から文書や計画書が回ってくる。浜田市の将来像は総合振興計画が最上位計画にある。それを見てもよくわからない。もっと簡単なイメージで、このようなまちを目指すのだということを、市民に言えばわかってもらえるような計画の示し方をしてほしいということを切実に言われた。

岡本委員　コーディネーターの役割について、この委員会の中で、勘違いがあるような気がする。各コーディネーターは、リーダーで旗振り役をする人たちではない。私は三隅の各センター長にコーディネーターについて尋ねた。三隅の2人のコーディネーターは計画にも積極的に参画いただいた、旭のコーディネーターは悩みがないかをセンター主事を主体に声をかけていった。そこだろうと思う。私は、その地域の抱える問題に対して、指導やサポートなどをして一緒に汗をかいてもらえないかというのがコーディネーターの位置づけだと思っている。それを我々が勘違いして、コーディネーターが旗振りをして何かをやるのだというから皆が依存するのだろう。そういう勘違いは整理すべきだし、三隅があれだけ進んでいるのは意識が全然違うからだろうと思っている。

各コーディネーターがこうやるべきだったと言われたら、市民はそれに賛同するだろうが、コーディネーター一人でどれだけの人を呼び込めるか。私はできないと思っている。当委員会の委員はこのあたりも腹入れしていかないと、間違いが起こる。

川神委員　私もコーディネーターが先頭に立って旗を振れ、道を示せ、問題点解決の矢面に立てとは全く思ってない。言い方が悪かった。まちづくりセンター職員が頑張っていろいろなことをやっていく、それに寄り添うようにいろいろな情報提供をしたり相談に乗っていく。縁の下の力持ちがコーディネーターの立ち位置ではないかと思って

いる。そういうときに、どのようにかかわってよいかわからない、まちづくりセンターとの意思疎通ができてなかったという指摘をされたところがあるということを今からどうするかということである。岡本委員が言うように先頭に立つのではなく寄り添う、あるいはボトムアップするような立場がコーディネーターの立場だと私も理解している。

芦谷委員　誰も答えが見えないので、センター職員もコーディネーターも中で交流しながら、次にどちらに行くか互いに勉強し合い次のステップに進むべき。今は誰に聞いても確かなことは言えない。地域との連携、住民総参加の中、地域ごとの実情を学びながら次に進むためにコーディネーターもセンター職員も連携していくことだと思う。

柳楽委員　コーディネーターについては地域によって感じ方が違っていると今回のヒアリングで感じた。組織を立ち上げることについて数名のコーディネーターがかかわってくれて助かっているという声も聞いたし、まちづくり計画の検討に参画してもらっているとか、かと思えば、どのようにコーディネーターに相談してよいか自体がわからない状況のところもある。

これはまちづくりセンター職員の話ではなく地域の声で、コーディネーターが何をしているかわからない、地域に入ってくれないという意見があった。そうではなく地域住民側に何か相談したいことがあるなら積極的にコーディネーターに呼びかけをする体制もつくっていかないといけないと強く感じた。そういう意識のずれもあるのかと思う。

とても印象に残ったのは、コーディネーターのこともそうだし、住民意識の醸成についてもそうだが、拙速に成果を求めないでいただきたいという話があった。私はこれを聞いて特別委員会としてどのように捉えたらよいかと正直思ったのだが、そういう声があったのは事実である。

岡本委員　つい先日、あるまちづくりセンターで浜田と金城のコーディネーターがミーティングをされていた。非常に和気あいあいとしていた。意外に、我々にはその活動が見えてないのだろうと思った。認識は改めないといけないし、柳楽委員が言うように成果などすぐ出ない。そこはそことして、しっかり認め合いながらやるのが、この委員会としては大事なことだと思う。

西田委員長　この件については、この委員会とコーディネーターとの意見交換も必要ではないかと思うので、先々そういうことも計画に含めていきたい。

まちづくりの経緯は各地域それぞれにあり、人口規模が小さいところは、まちづくりにかかわる人が多いため、そういう意識につながるのだろう。逆に市街地など中心部の方々は人口規模が大きいた

め、地域のまちづくりを地域でやろうにも集まることもできないし、意識もそこまで醸成されない。

三隅は生涯学習宣言をしたり、地域担当制の中で自治会単位で5年ごとに将来計画書を考えてきたりした経緯もあって、意識につながっていったように思う。

そういった面では、それぞれの地域において過去の流れは違うが、今は合併して浜田市が一つになったのだから、各地域の違いは、それぞれの特徴であり、生活をする中で、それぞれの考えがあり、それをお互いが認め合っていけば何ら問題ないのだろう。

金城地域のでもあるセンターでの話で、各地域でやってきた活動を浜田市全域のセンター間で交流すれば、気づくこともあり、お互いにメリットがあるのではという意見があった。今福小校区では三つのセンターが常に交流しているという。交流は大事なことだと思う。互いの地域、お互いのことを理解して、自分たちのプラスにつなげる、この活動が協働のまちづくりにつながる気もする。どういったところが成果かというのではなく、地域の方々が、どういう意識で活動し、地域を持続させるかが協働のまちづくりの狙いなのだろう。完成形はないし、生活している地域住民の考え方一つで地域が変わっていくと思う。

委員に熱心に意見を出してもらえる、これが大事なのだろう。これからの協働のまちづくりも、この委員会の進め方も、熱を入れていろいろな議論をしながら進めていければよい。

今日発表していただいたことはある程度まとめさせていただきたい。まとめ方についてはどうしようか。

河上局長　例えば地域ごとの共通課題をまとめたほうがよいか、それとも浜田市全体の共通課題をまとめたほうがよいか。方針を委員に決めていただけば事務局で対応できると思う。

岡本委員　各地域のまちづくりの成り立ちが違うので、地域ごとに意見をまとめる部分。それから協働のまちづくりという言葉への理解不足というのは共通項だと思うので、それを各地域担当の委員の認識を加味しながらまとめていただく。資料としてつくっていただけたらと思う。

西田委員長　今出たいろいろな意見を、共通項も含めて資料としてもう少し簡潔にまとめさせていただこうか。作業は正副委員長と事務局とで。

河上局長　今日出た意見も加味しながら、26館回られた最後の総括のようなものを作成する、という考え方でよろしいか。

柳楽委員　正副委員長と事務局とでやっていただくのは、負担が大きくないか。

岡本委員　おのおのがある程度分担して行ったところをまとめる、ということでどうだろうか。

西田委員長　班ごとにもう少しコンパクトにまとめていただいたものを、最終的に正副委員長と事務局とでまとめさせていただく形でよいか。

柳楽委員　同じ地域のヒアリングシートへの回答に共通していることもあったので、共通している部分を項目にあてはめていってまとめるという認識でよいか。

河上局長　参考として川神委員・村木委員が担当したところは手持ちの報告書を持っておられたので参考に見てほしい。このような形がよいか、まったく別のものがよいか。

岡本委員　もっとコンパクトにまとめるべきだろう。そういう形で進めていただきたい。

芦谷委員　定例会議も控えているし、後の成果につながらないような作業はしないほうがよい。センターの現状と自分たちが聞いて帰った問題点をどうしたらよいか、自分がわかる範囲で。柱を立ててもらい、その柱に沿うと自分が思う部分を、今日の話を受けて自分なりに考えて整理しながら、ある程度踏み込んだ、次へ進むようなまとめをしたらどうか。班ごとよりもむしろ個人のできる範囲でやってもらったほうが早いと思うが。

岡本委員　芦谷委員の気持ちは十分わかるが、ヒアリングした内容を自分で考察し方向性を決めるのは皆で諮るべきだと思う。それを先行されるとまとめづらくなるような気がする。あくまでヒアリング結果に基づき感想を加え、例えば本当に協働のまちづくりという住民意識がなかったのか、それとも意識がないわけではないが言葉としての認識がないのか、そういう考察程度、意見を述べるにとどめて、その結果を見て次のステップを考えるのは、それこそ結果を求めるような行為ではないのか。

芦谷委員　それでよいと思う。問題はこの特別委員会で方向性なりをまとめて提言することと、もう一つは執行部の背中を押すこと、その二つを視野に入れながら。成果も上がらないような委員会ではいけない。ぜひその二つは視野に入れてもらいたい。

西田委員長　あくまでもこの特別委員会の目的は協働のまちづくりを推進することなので、いろいろな課題、現在まちづくりの現場が抱える問題と現状を、どう修正していくか。執行部の追い風になるようなことも時には必要だと思う。執行部と特別委員会、特別委員会とまちづくりセンター、地域、それらがキャッチボールしながらよい方向性に近付けることが我々の役目かと思う。悪いところを追求するのではなく、後押しをする。協働という言葉はその辺が鍵になると思う。よい方向に、ポジティブな考え方でいきたい。

今出されたいろいろな意見については、各自でまとめるということでよいか。

柳楽委員　各自でとは、例えば各自が地域ごとに出されている意見をまとめ

て出すというイメージなのか。

西田委員長　それか各班でか。全体か。先ほど言われた意見が大方だろうと思う。それをいかにコンパクトにするかだろう。資料としてコンパクトに残しておけばよいだろうか。

河上局長　我々は見に行ってないので、文章校正のような機械的作業しかしづらい。皆の思いがまとめられるか不安があるので、コンパクトに各委員がそれぞれ思いをまとめて出していただければうれしい。

まとめ方も、今日の話を聞いて浜田市全域のまちづくりセンターの現状、課題を出してもらうのか、それとももう少し細かく、自分が行ったところを再度精査してもらうのか。そのあたりは決めていただいて。どういったことを書けばよいのかシートをつくってほしいと言われればつくるし、フリーのほうが楽ならフリーで思いを書いてもらってもよい。

柳楽委員　シートはあったほうがまとまりやすいかと思う。個人でやってよいと思うが、浜田地域内は分散したのでこれをどうまとめるかが課題かと思う。

西田委員長　ヒアリングシートはあったほうがよい。シートは一応作る。そのまとめ方が、四つの班ごとに行ったところについて、そのシートに沿ってまとめるのがよいのでは。

河上局長　柳楽委員が言われるのは、旧那賀郡地域はそれぞれを同じ班が行っているので、全体を見て書けるが、浜田地域はばらばらなのでどうすればということだと思う。浜田地域は訪問先に対してシートに書いてもらおうか。

川神委員・村木委員は弥栄地域の訪問先が少なかったため浜田地域内の4か所のセンターに訪問してもらっているが、その4か所を１枚のシートにまとめてもらってよいか。

西田委員長　はい。

河上局長　ほかの委員は浜田地域内で1センターしか訪問してないので、1センター分を同じように1シートでまとめてもらうということで。したがって皆に2枚出していただくことになると思う。

シートは今日出た意見を参考につくり、正副委員長に了解をもらってから配信させていただく。

西田委員長　実際に行ったところについてまとめていただくようお願いしたい。よろしいか。

（　「はい」という声あり　）

ではそのようにさせていただく。

2　今後の進め方について

西田委員長　先ほどの話のように、シートでまとめていただくのが一つ。前々回の資料にもあったし先ほどの意見にもあったが、まちづくりコー

ディネーターとの意見交換会についてはいかがしようか。

岡本委員　個人としてはぜひ進めていただきたい。

西田委員長　では当委員会とまちづくりコーディネーターとの意見交換会は実施するということで、決定させてもらってよいか。

（　「異議なし」という声あり　）

河上局長　6月定例会議が終わるくらいのタイミングで調整させていただいてよろしいか。

西田委員長　終わってからで。

河上局長　はい。

西田委員長　実施の段取りをさせていただく。当委員会の所管についていろいろ出ているが、総務文教委員会と当委員会とで考え方が違うという点も懸案である。

河上局長　条例に基づいてまちづくりに関することや地域協議会に関することは、この特別委員会が所管ということで4月に一定の項目を挙げていただいたが、その中で例えば長沢サブセンター建築については前々から総務文教委員会で担ってきたし、整備ということで話が大きいので、これについては引き続き総務文教委員会で対応していただいたほうがよいのでは、と事務局は思っており、正副委員長に判断をいただいた。

ただ、地域政策部からすると、一つ一つの案件についてどちらが担当するのか、途中までは総務文教委員と話していたが中身によって今度は特別委員会で話をするということになると、話の行き違いとか再度最初から説明しなければならないとか、いろいろ不都合が出てくるので一定の整理をしていただくとうれしいと言われた。委員にはそのあたりを考えていただきたい。

岡本委員　事務局長の言われたことは十分理解できる。当委員会は各常任委員会から数名ずつ出ているので、所管常任委員会に所属している委員が調整を図るよう預けてもらい、協議していただくということでお願いしたい。

西田委員長　あまり固めず、現状に応じて議論させていただきたい。

柳楽委員　先ほどのシートの提出期限を示していただきたい。

西田委員長　シートを作成次第、配信する。次回の当委員会の開催予定をある程度立てて、そこから逆算して締め切りを決めさせていただきたい。コーディネーターとの意見交換会を先にしてからにするか。

河上局長　地域コーディネーターとの意見交換会の日程をまず固める。

西田委員長　ではそちらを先に。6月定例会議会期内にはある程度決まると思う。ヒアリングシートのまとめについては、追って締め切りを伝える。今ははっきり決めないことにする。

芦谷委員　まちづくり委員会と自治会とを統合するという話があちこちである。そういった各地区のまちづくり委員会、自治会、事務局をまち

づくりセンターが持っているのか、持ってないのか。自主防災組織はどうなっているか、地区社会福祉協議会はどうなのか。私は、浜田は一本に整理したほうがよいという立場である。しかし今は各地区ばらばらで、そのままこれで行くなら行くでよいが、実態がよく見えない。執行部に組織図を整理してもらえばよいのだが。

西田委員長　まちづくり委員会も名称が違うところがあるし、三隅の場合は自治会代表者がまちづくり委員に入るよう決まっている。

河上局長　今配信した資料を見てほしい。これはまちづくりセンター訪問の前に委員から要望があって用意した資料である。現状がこれである。

西田委員長　芦谷委員が言われた点も課題の一つであるが、すぐには難しい。現状をしっかり把握しながらよい形に。一本化が最善ではあるが、よい方向に向かう意識を持っていたい。

川神委員　今配信された資料を見て雰囲気はわかった。我々もヒアリングに行った際、センターとまちづくり委員会、センターと地区社会福祉協議会の関係性が個々で違う。センター中心で進んでいるところもあれば並列で存在するところもある。あまりネットワークがない地域もある。組織が存在しているかどうかはこの資料を見てわかるが、センターがどういう立ち位置で各組織とつながっているのかがわからない。その辺の実態を知っておく必要がある。その辺の調査をお願いする。

西田委員長　その辺もこの委員会で進めることの一つかもしれない。

3　その他

西田委員長　その他、何かあるか。

笹田議長　私も4か所のセンターについて行った。おのおのの課題が全然違っていて非常にびっくりした。地区まちづくり推進委員会との連携、地域協議会との連携がまちづくりセンターごとに違うことがわかった。我々としても自治区制度に変わるものは何かということで、市としては地域協議会も継続し、そこで課題を拾い上げて市がしっかりやっていくということも一つ。まちづくり総合交付金の件もあったが地区まちづくり推進委員会を設立して、そこにまちづくりを担ってもらうという考えも一つ。今回まちづくりセンターに変わってまちづくりセンターが中心となってまちづくりを進めていきたい。これも一つ。では果たしてどこが中心になってやっていくのか、恐らく我々も見えてないし市民も見えてないと思う。

これを一本化とは言わないがどのように整理して、どのように市民が組織を理解していくのかが非常に大事なのではと私も思っている。今日の委員会を見ても、さまざまな課題があると思った。今後これを整理して進めていくとのことだが、議会としてどうあるべきかをしっかり考えていかないといけないと私も改めて考えさせられ

西田委員長	た。皆、大変だと思うが引き続きよろしくお願いする。 ほかにないか。 （　「なし」という声あり　） 以上で本日の協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。次回は追って連絡する。

〔　14 時 56 分　閉議　〕

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長　　西　田　清　久